



自治労函館地方協交流集会（渡島・檜山）

交流集会ニュース

発行
【第2号】
2014年6月12日
自治労函館地方協
交流集会実行委員会

主催・来賓あいさつ

開会にあたり、実行委員会の池田修久事務局次長（檜山地本青年婦人部書記長）より「職場でおきているオカシイに気づき、そのことをどう行動に移し、問題解決に向かっているのかを学んで欲しい。積極的に議論をして、学んだことを各単組・総支部に持ち帰ってほしい。」と挨拶がありました。



実行委員会を代表してあいさつをする池田事務局次長

組織強化であるとの挨拶がありました。ほかに渡島地方本部川村哲也執行委員長、民主党北海道第8総支部代表の逢坂誠二代表（代理小島秘書）、北海道議会議員の高橋亨議員、笹田浩議員より挨拶をいただきました。

基調提起 「仲間と力」をつくりだす！

今集会の基調提起では、仲間と討論する中で明らかとなった課題や運動の総括をしつかりと行い、すべての職場から労働者の生命と権利を奪う合理化に抵抗していける「仲間と力」をつくりだすことが重要であり、そのためにも交流集会運動を参加者だけの取り組みとせず、事後の取り組みについても強化し、集会に参加した仲間にとどのような「意識の変化」があったのかを確認し、今後の運動へとつなげていくことを全体で確認しました。

基調講演 ガマンの先で、喜ぶのは誰だ？

前北海道本部青年部長の牧野長武氏より基調講演をいただきました。



牧野前北海道本部青年部長の基調講演

労働者のモノの見方・考え方、プレミアムホームランバーの当たり（ホームラン＝バスターなのに、当たりが奪三振王）に例え、参加者からも「モノの見方が変わることによってこんなにも視点が変わるのか。」との声もありました。ガマンをしても自分たちには得がなく、全て当局の思うままに

動かされている。「合理化の行きつく先はミスなどを招く、悪循環しかない。」と熱弁し、さらに、他単組の実際の活動内容も分かりやすく講演いただき、最後は「扇子」のいい話で締めくくりました。

職種別分散会

渡島・檜山地本合計18単組・総支部、101人の仲間が、税務・住民サービス・保健福祉・建設など、16のグループに分かれて職種別分散会が行われました。分散会では、「若手職員の業務過多による慢性的な残業」「不払い残業が多くモチベーションもあがらない」など、合理化による弊害が不満となっていて現れていました。また、同じ町でもその課によって時間外勤務命令の仕方や代休の取得方法などが違うことも議題にあげられ、「管理職の考え方だけで変わるのにはオカシイ。」という声も出されていました。同じ職種の仲間と討論することによって気付いた、それぞれの



分散会の様子

～この言葉の意味を知りたい！②～
◆実態討論
分散会形式で自分たちの生活環境について話し合うこと。
◆分散会
数名ずつの班に分かれて、テーマを決め話し合うこと。
◆合理化
業務の効率化・人員削減・業務委託等、当局にとって有利だが、組合として許されないこと。
そのためにもまずは、「仲間と集まって話すこと」が第一歩です！

講演 自治労共済について

分散会終了後、自治労共済北海道支部鈴木氏より、自治労共済についての講演をいただきました。

講演では、自治労共済の成り立ちや、生涯でどれくらい保険料を支払うのかなどについて、わかりやすく講演いただきました。

皆さんも、自治労共済へ加入しましょう！

分散会報告

16分散会の中から代表して、3つの分散会より報告をいただきました。分散会報告では、時間外勤務手当について、「そもそも時間外命令簿の記入方法がわからない」、「自分の能力がないから残っている。時間外勤務手当は必要ない」といった仲間がいる現状から、解決方法としては、時間外勤務手当について組合で学習会を行うことから始めていき、そこから職場の改善に繋げていくべきでは

実行委員長集約

最後に澤田元気実行委員長（渡島地本青年部長）から次のように全体集約がされました。「今回の集会により学んだこ



分散会報告を行った

長久保座長（右上）
沖津座長（右下）
岸田座長（左上）



全体集約
（澤田元気実行委員長）



最後に澤田元気実行委員長（渡島地本青年部長）から次のように全体集約がされました。「今回の集会により学んだこ

最後は、檜山地本青年婦人部熊谷友良副部長の団結ガンバローで集会が終了しました。

と、気付いたことを各単組に持ち帰り、仲間と議論してほしい。そして厳しい職場実態の今だからこそ、青年層が一丸となって戦う意思統一をし、安心して生活できる職場づくりを目指してほしい。今日感じた様々な思いをこれから一歩踏み出せるきっかけとしよう。そして、仲間の声に耳を傾け、各単組・総支部で『できること』から一つ一つ取り組んでいこう。他単組・総支部と比べて取り組みができた、できなかったではなく、自分たちが一歩踏み出したその成長を大切にしてほしい。」と締めくくりました。

～ 集 会 を 終 え て ～



福島町職労
管藤 周平

今回の集会には、各単組総支部での問題を出し合い、どのようなことが問題点になっているのか、その問題点を少しでも解決につなげられるとより仕事のしやすい職場になると思い参加しました。今回の交流会で意見交換した内容を単組に持ち帰り、より良い職場になるよう頑張ります。



江差町職労
浦野 宏美

自分と似た環境で仕事をしている仲間と話すことによって、自分の置かれている状況を再認識し、悩みを共有することができました。問題解決への一歩を踏み出そうという気持ちになり、また、多くの仲間と知り合うことができ有益でした。



長万部町職労
三浦 安奈

私は、分散会に何度か参加したことがあります。毎回新しい発見があります。今回も、自分の職場のオカシイに気付いたり、他の単組の良いところを知ることができました。今回得たものを今後の組合活動に活かしていけたら良いと思います。



上ノ国町職労
小澤 巧佑

はじめは緊張して内容が頭に入らなかったが、わかりやすい説明とレジュメがあり、理解することができました。そんな中、牧野さんの講演が印象に残っています。活動をしなければ何も始まらないということです。活動を起こすことにより、職場がもっと良い環境になるのではと思いました。